

学校部活動の地域連携及び地域移行について

1 R 6 年 地域移行に関する状況調査 一部紹介

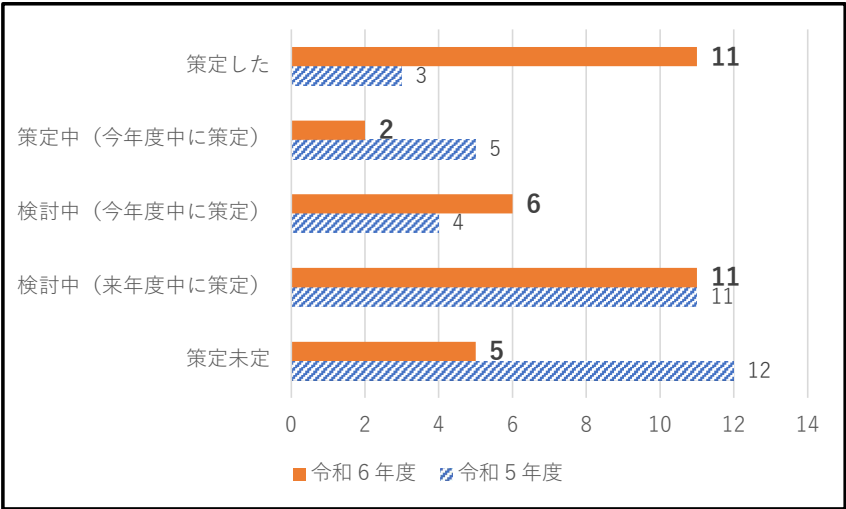
調査対象： 3 5 市町村地域移行担当部局（教育委員会、スポーツ・文化部局等） 調査期間： 令和 6 年 1 2 月～令和 7 年 1 月

(1) 学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組む市町村の状況

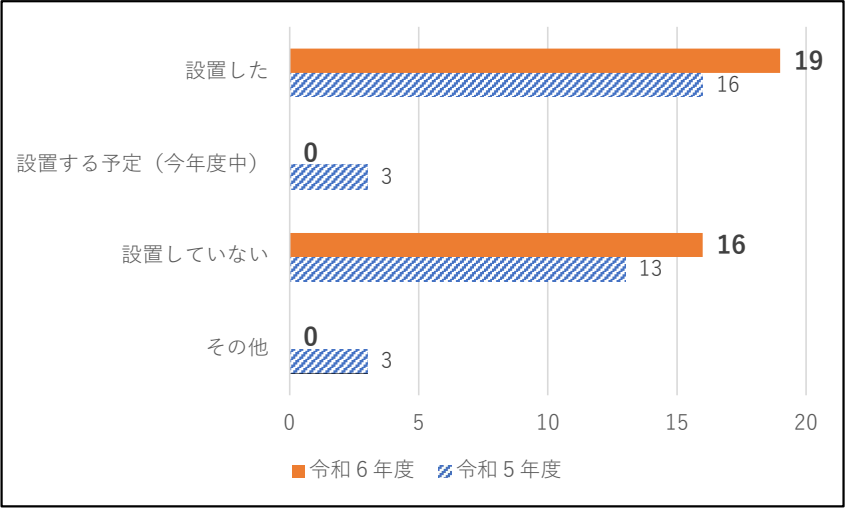
地域連携に取り組んでいる市町村	令和 5 年度	令和 6 年度
	9 4 %（ 3 3 市町村）	9 1 %（ 3 2 市町村）
・ 部活動指導員が部活動を行っている学校	5 7 %（ 8 8 校/1 5 4 校）	6 3 %（ 9 7 校/1 5 3 校）
・ 外部指導者が部活動を行っている学校	8 2 %（ 1 2 7 校/1 5 4 校）	8 2 %（ 1 2 5 校/1 5 3 校）

地域移行に取り組んでいる市町村	令和 5 年度	令和 6 年度
	4 3 %（ 1 5 市町村）	4 3 %（ 1 5 市町村）
※地域移行を行っている学校	1 8 %（ 2 8 校/1 5 4 校）	3 9 %（ 5 9 校/1 5 3 校）

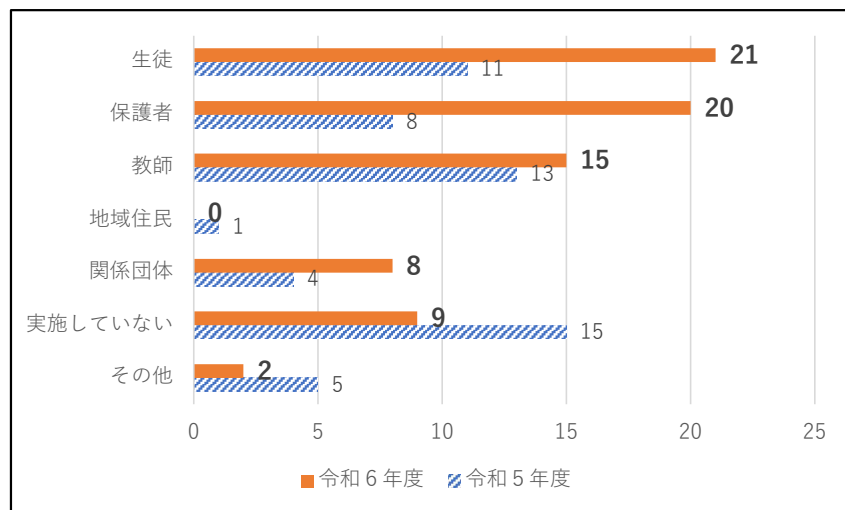
(2) 推進計画等策定状況



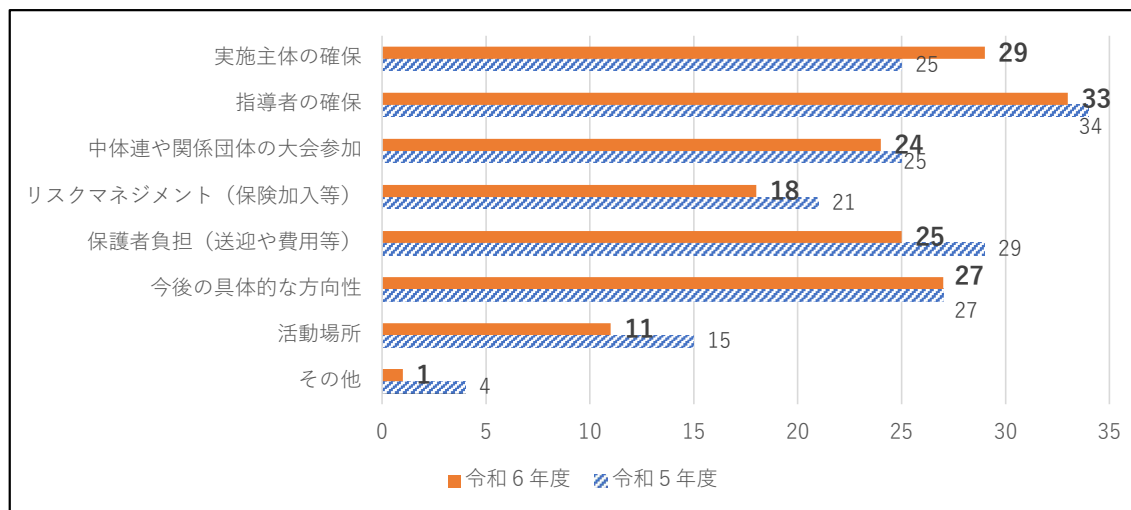
(3) 協議会や検討委員会等の設置状況



(4) 実態把握の状況（複数回答あり）



(5) 課題と考えていること（複数回答あり）



(6) 成果と考えていること（自由記述）

- ・ 児童生徒および保護者へのアンケートを実施し、地域移行に向けた課題を抽出することができた。
- ・ リーフレットの配布により、本市の目指す方向性を児童生徒、保護者、教職員、地域の方々に周知することができた。
- ・ 地域クラブ活動を実施したことにより、課題が見えた。そのため、市として課題解決について考える方向性が見えてきた。
- ・ 地域移行の日を年間計画でお伝えしたことで、地域指導者中心でメニュー計画等の作成を行えた。
- ・ 受け皿が少しずつだが増えてつつある
- ・ 管内小中学校の休眠楽器を練習場所に置き貸与することで、課題であった保護者負担の重い楽器運搬を解消できた。
- ・ 地域・現場のニーズにより、拠点校方式の実施について、教育委員会・校長会を中心に検討し、準備を進めることができた。

(7) 各市町村の取組例

- 現在は第2・4週休日を部活動を行わない日としている。同時に、「中学生・多様な学びの日」として、多様なスポーツ・文化活動に中学生が参加できる環境を整えた。
- 地域スポーツクラブ設立の手順等を作成し、各中学校や関係団体に送付した。
- 市内中学校で部活動として取組ができない運動部活動競技において、地域クラブに移行できる競技を移行した。また、今後を見据え、合同練習会を実施するなどして地域移行の受け皿としての足掛かりを作った。
- 指導者人材バンクの作成。
- 部活動バスの運行、部活アプリの活用。
- 一概的に『地域に部活動移行する』ではなく、社会体育活動に部活動を組み込んでいくという方法で進めて行きたいと考えている。スポーツ少年団や体育協会が社会体育活動として中学生の活動の受け入れもしている。

2 今後の取組予定

- (1) 県の総括コーディネーターやコーディネーター、担当者を中心に、随時、市町村等が相談しやすい体制整備を進める。
- (2) 保護者や地域住民、関係者向けに、シンポジウムやセミナーを開催したり、リーフレット等を作成したりし、部活動の地域連携及び地域移行についての理解を深められるようにする。
- (3) ぐんま部活動・地域クラブ活動 指導者・サポーターバンクの運用。
 - ・令和7年2月 「登録希望者向け研修会」を県内3箇所で開催
 - ・令和7年3月 登録者情報の市町村への提供
 - ・令和7年3月以降 市町村が地域クラブからの依頼に応じて、登録者情報を地域クラブに提供
- (4) 実証事業等を通して、市町村の部活動の地域移行に係る地域課題の解決に向け、群馬県として重点を定めて取り組む。
- (5) 国の動向を注視し、ワークショップや各市町村等の意見を参考にし、第2回群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会WG会議（令和6年12月19日）及び第2回群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会（令和7年2月6日）等での検討を踏まえ、本県における部活動改革を推進していく。